National Technology News

共催：

InterSystems®
Creative data technology

エンドツーエンドのサプライチェーン：ロジスティクス組織、サプライヤー、小売企業はいかにしてテクノロジーを活用してデータを接続し、業務の俊敏性を確立しているか

特別討論会

InterSystems
Creative data technology

エンドツーエンドのサプライチェーン：ロジスティクス組織、サプライヤー、小売企業はいかにしてテクノロジーを活用してデータを接続し、業務の俊敏性を確立しているか

サプライチェーンの混乱に関する記事が見出しを独占する中、パンデミック、ブレグジット、ドライバー不足によってサプライチェーン企業は最悪の危機的状況に陥っています。

ロジスティクス、小売、消費財メーカーの幹部が一堂に会し、テクノロジーを活用してサプライチェーンの混乱に対処しようとする企業にとっての重要課題について探りました。

急速なデジタルトランスフォーメーションの時代にあって、ロジスティクスプロバイダーから小売企業、サプライヤー、製造企業まで、あらゆる企業が競うようにシステムの最新化とオムニチャネルの連携を実現し、顧客が期待するジャストオンタイムサービスを提供しようとしています。

このような背景から、データへのアクセスとサプライチェーンプロセスの可視性とがきわめて重要になっています。しかし、多くの企業は時代遅れのレガシーシステムとサイロ化した情報の迷路からいまだに抜け出せていません。つまり、サプライチェーン全体での出荷品の所在の特定、在庫レベルの監視、注文の追跡は、現実というよりむしろ願望でしかないのが現状です。

こうした課題に対処するために多くのサプライチェーン企業が探っているのが、サプライチェーンコントロールタワーというコンセプトです。これは、組織内のデータをパートナーと接続して業務を効率化し、データに潜む洞察を活用して柔軟性と回復力の強化を図るというものです。

National Technology News とインターシステムズはロンドン中心部にある超高層ビル、The Gherkin で夕食懇談会を催しました。ロジスティクス、小売、消費財メーカーの幹部が集まり、データとテクノロジーを活用することで、サプライチェーンの混乱を克服し、不確実な将来に対処するための俊敏性を確立しようとしたときに、企業にとって何が主要課題になるかを探りました。

このイベントの冒頭で、この 12 か月に各組織が直面したサプライチェーンとロジスティクスの主要課題についてのディスカッションが行われました。

「要するにこれはサプライチェーンにおける混乱と実用的な洞察の話なのです」と、インターシステムズのサプライチェーン担当シニアアドバイザー、Mark Holmes がディスカッションの口火を切りました。

大手多国籍食品・飲料企業のサプライチェーン担当シニアディレクターも、この混乱が目下の重要な問題であることに同意しました。

「コロナ禍の余波でサプライチェーンが分断されている今、供給継続が最大の問題です」と同ディレクターは語りました。「組織間の接続をどのように確保したらいいのでしょう」

英国の高級服飾ブランドのサプライチェーン責任者は、自社が直面した最大の課題の 1 つはロックダウンのさまざまな段階への対処とブレグジットであり、今もまだこの問題に悩まされていると述べました。

> 「コロナ禍の余波でサプライチェーンが分断されている今、供給継続が最大の問題です」

「私たちはこれまでずっとサプライヤーと 3PL に頼ってきました。彼らは専門家ですから。しかし、今の状況では専門家は誰もいません」と同責任者は語りました。「彼らから指導を仰ぐことはできないのです。私たち全員が学んでいる最中なのです」

さらに、次のように付け加えました。「データとテクノロジーは 1 か所に集まっているわけではなく、さまざまなプロバイダーに散らばっています。複数のサプライヤーにわたる可視性があればどれだけ楽だったでしょう」

多国籍テクノロジー企業のデータサイエンス責任者は、自社の組織全体での最大の課題は、チップ不足と小売のピーク期間における在庫であると述べました。

「データの側面から、私たちはデータサイエンスとサプライチェーンで機械学習の価値を実証しようとしています」と同責任者は語りました。「この 2 年間は予測機能に甚大な影響を及ぼしました。今の段階でこの 2 年のデータからどう学べばよいのでしょうか」

大手ロジスティクス企業のインサイドトラック責任者は、コロナ禍によって企業は先回りして物事を行わなければならなくなったと指摘しました。

「要は、異なる要素をまとめ、その要素すべてを考慮して判断を下すことです。1 つの要素だけではだめなのです」と語ったのは、グローバルなサプライチェーン企業の統合ロジスティクス責任者です。

「これをこの 1 年に起こった出来事に当てはめてみましょう。

判断材料となる情報がありませんでした。選択肢も大してありません。どうすればいいでしょうか」

「ある地点では空輸を予定していますが、顧客側はゼロカーボンを求めています」

国際的テクノロジー企業のデータ戦略責任者は、新たなデータ構想への投資を確保しようと多大な時間を費やしていると述べました。「ここ数年の課題は、誰もがあらゆるものを直ちに手に入れたがっているが、どう考えてもそれはすぐには実現しないということです」と、同責任者は説明しました。

InterSystems
Creative data technology

「私たちの主な課題はデータを可視化することと、エンドツーエンドのサプライチェーンジャーニーを把握できるようにすることです」

「投資の正当化という点から付け加えると、実は利点について論証するほうが難しいのです。投資の理由はコロナ禍やブレグジットですが、今ウクライナで起きている紛争も理由になる可能性があります。こんなことは『二度と起こるはずがない』のになぜ百万ポンドもの投資が必要なのか、と言われてしまうからです」

英国の化粧品会社の移行マネージャーは、現在、サービスデスクの移行を進めていると述べました。

「IT チームを拡大し、再編成しようとしています。当社はこれまでITよりもビジネス戦略を重視していましたが、今後は IT チームの規模を 2 倍にするつもりです」と、同マネージャーは語りました。「IT で戦略的にリードしていこうと思っています」

英国の高級服飾品企業の業務担当ディレクターは、会社が抱えている課題について訊かれ、次のように答えました。「何からお話ししたらいいでしょう」

そして、次のように続けました。「私たちのブランドは変革のさなかにあるところに、コロナ禍、ブレグジット、サプライチェーンの危機が起こりました。私たちの主な課題はデータを可視化することと、エンドツーエンドのサプライチェーンジャーニーを把握できるようにすることです」

英国の大手 DIY 小売企業のテクノロジーディレクターは、自社は目下、データの活用方法を探っているところだと説明しました。

「私たちの業務は多種多様です。非常に複雑な顧客にサービスを提供しなければならず、運営しているフルフィルメントセンターは 60 か所に上ります」と、同ディレクターは語りました。

英国のロジスティクス企業の最高技術・情報責任者は、以前は大手テクノロジー企業に勤めており、そこで海運業界と密接に関わっていたと述べました。

当時を振り返りながら、同責任者は、デジタルツインテクノロジーが最優先課題であり、会社は試験運用に 5 億も投じていたと説明し、脱炭素化は第 2 優先課題だったと述べました。

「正しいことをしたいと言いながら、燃料油価格が上がるやいなや、そのほうが安いからと運河を通らずにホーン岬を回って航海するのは見事な偽善です」と語りました。「現在、ビジネス全体、特にテクノロジーで人材が大きな懸念材料になっています。業務レベルで能力を発揮できる有能な人材、運送業者の複雑さ、関税、株価などの状況を理解できる人材を育てるには長い時間がかかります。迅速かつ効果的な人材の投入が重要な課題です」

さらに、次のように付け加えました。「ジャストインタイム環境で組織の予測能力を高めようとしていたのが、突然方向転換し、『今はジャストインタイム方式は無理ではないか』と後戻りすることになっています。現在はより多くの備蓄が必要であるため、倉庫管理を推進しようとしていますが、こうした業務への体制が整っていないのが実情です」

ホスピタリティー関連企業の業務責任者は、同業界における人手不足について強調しました。

「177,000 人の欠員があります」と同責任者は指摘しました。「私たちはオンライン販売を始めました。暗い時期もありましたが、抜け出しつつあると思います」

「これはつまり、可視性の観点からすべてのデータを統合するだけでなく、データを基に行動できるようにし、データを実用化することなのです」

大手ロジスティクス企業のデジタル化・イノベーション加速責任者は、24,000 人以上の欠員がある中で業務運営を迫られており、労働力不足が大きな問題となっていると説明しました。

「減少はゆるやかですが、このままではだめです。人材獲得競争が起こっています。データ分析に携わる人材や、倉庫作業員、ドライバーが不足しているのです」と、同責任者は語りました。「ブレグジットの影響やその他の要因で移住が増加していることを踏まえると、今の私たちの制約は倉庫のスペースやパレットスペースではなく、作業員の数なのです」

英国の食品会社のフルフィルメントプランニング生産性・洞察担当マネージャーは、自社は今スタート地点にいると述べました。

「この 3、4 年で経営チームも業務部門も急成長しています」と、同マネージャーは語りました。「私たちは労働力不足に対処しながら、成長を維持しなければなりませんでした」

労働力不足が大問題だったことについては、鶏肉メーカーのロジスティクス担当ディレクターも同意し、さらに鳥インフルエンザ、ブレグジット、そして労働力の高齢化も市場における課題だと付け加えました。

「ジャストインタイムからジャストインケース（万が一の備え）に移行しつつあります」と、大手自動車メーカーのビジネス開発コンサルタントが説明しました。

「業界内の文化を話している部分もあると思います。共通の問題に全員で取り組み、商業的にビジネスに不利にならないような形で協力しながら解決するためには、人々の意識をどのように変えたらいいでしょうか」

インターシステムズのサプライチェーン担当シニアアドバイザーの Mark Holmes は、在庫を真に最適化するためには、データという視点が必要だと述べました。

「これはつまり、可視性の観点からすべてのデータを統合するだけでなく、データを基に行動できるようにし、データを実用化することなのです」と、Holmes は一同に語りました。

その後、出席者たちは、ロジスティクスプロバイダーや小売企業が、データとテクノロジーをいかに活用して混乱を克服し、業務における回復力を確立しているかについて語りました。

鶏肉メーカーのロジスティクス担当ディレクターが、飼育には膨大な数のアルゴリズムが割り当てられることについて述べました。

「鳥がどこに群がっているかを把握するための分析もあります」と、同ディレクターは語りました。「私たちにとって、テクノロジーの目的はカーボンマイナスになること、つまりデータサイエンスを活用した飼育です」

続いて、サプライチェーンビジネスにおいて、ビジネス全体でデータ、プロセス、ワークフローを接続する新たなテクノロジーを導入する際の主な障害について議論されました。

ロジスティクス企業の最高技術・情報責任者が、選択する能力が重要だと述べました。

「迅速、安価、環境配慮のどれを求めるかです」と、同責任者は語りました。「この問題はまだ誰も解決していません。この問題を解決するために、さまざまな企業が大量の時間と資金をつぎ込んでいますが、データはまだ共有されていません」

一同はまた、俊敏性の確保と業務上のリスク管理におけるサプライチェーンコントロールタワーの役割についても語りました。

食品・飲料企業のサプライチェーン担当シニアディレクターが、コントロールタワーに関連する課題は多数のシステムの統合だと述べ、議論するのはよいことだが、20 ものシステムを実際に統合するのはまた別の問題だと指摘しました。

「私たちが現在直面している課題は、システムは機能しているので変える必要はないものの、スケーラブルでない、ということです」と、高級ファッションブランドの業務担当ディレクターが説明しました。「皆、変更に消極的です。物事をオープンにし、整合性や拡張性、透明性を確保するためのスペースに移動しようとしません。企業として前進するための適切な修正を行わずに、小さな絆創膏のような修正で満足しているのです。変化のスピードもかなりゆっくりです」

テクノロジー企業のデータ戦略責任者は、自社はデータの統合に非常に注力していると述べました。

「システムごとに課題があります。レガシーシステムの場合、課題は大きくなります。API を備えていて、それを利用できる新しいシステムの場合、課題はいくらか簡単になります」と、同責任者は語りました。

「正直なところ、長く辛い作業です。価値を実現するためには、こうした作業を数多くこなさなければなりません。

この作業を正当化し、最適なものを見つけることが、私たちの課題の 1 つです」

ロジスティクス企業の最高技術・情報責任者は、テクノロジーそのものを重視しすぎないことが重要だと説明し、「ソリューションに惚れ込むのではなく、あくまでも問題と向き合う必要があります」と語りました。

英国の大手自動車メーカーのビジネス開発コンサルタントは、考慮すべき最重要事項の 1 つはチャンピオンシップであることを自分のチームは苦労して学んだと述べました。

「自分たちのやろうとしていることを真に支援してくれる 1 人のチャンピオン（擁護者）を、取締役会レベルで見つけることが大切です」と、同コンサルタントは付け加えました。